



SAIJO  
LIONS  
CLUB

# 西条



ライオンズクラブ国際協会創立者  
MELVIN JONES



2021.3.2 献血実施会場にて

No. 526

4 月号 2021

ライオンズクラブ国際協会 336-A地区  
2R4Z 西条ライオンズクラブ 広報誌



2020-2021 ライオンズクラブ国際協会会長 ジュンヨル・チョイ

テーマ 「 We Serve 」

2020-2021 ライオンズクラブ国際協会 336-A地区

スローガン「 Service Activity is the key to Lions Clubs 」

2020-2021 336-A地区ガバナー 酒井公一

スローガン「 誇り・進化・輝く未来に ウィサーブ 」

キーワード「 会員ファースト 」



2020-2021 西条ライオンズクラブ第60代会長 宮崎英明

スローガン「 感動で 一つの心 We Serve 」

キーワード「 絆 」

### 新居浜ひうちライオンズクラブ結成25周年記念ゴルフ大会覇者よりご挨拶

2021年3月20日(土)滝の宮カントリークラブにて開催されましたゴルフ大会へは、急遽エントリーが決まり、新居浜ひうちライオンズクラブ様には迅速な対応をいただき感謝申し上げます。

おかげさまで、名誉ある大会覇者となりました。

気持ちの良い晴天の下、普段のゴルフプレー時に比べ、穏やかに新居浜ひうちライオンズクラブ様の結成25周年を祝う心のまま、プレーをさせていただけなのですがなんと！！優勝という、とても嬉しい結果がプレゼントされたという次第です。

ちなみに、当クラブからは12名のエントリーでした。日頃、コロナ禍社会の中で自粛、自粛と窮屈な不安いっぱいでも過ごしている我々にとって束の間、青空の下伸び伸びと大好きなゴルフを楽しんだ一日となりました。同伴のメンバー、そして貴クラブに対し、感謝いたしますと共に、ますますのご発展を心よりお祈り致します。本当にありがとうございました。



優勝 大棟真二

20位(当日賞) 山本新一郎

60位 植木光夫

ドラコン賞(赤石 No.9)

大棟真二

ニアピン賞(赤石 No.2)

伊藤正己



地域に根差したアクティビティー【清掃奉仕】

いのちのリレー【献血奉仕】

令和3年3月2日(火)毎年恒例の献血奉仕の日に今回は、昨秋に中止となった清掃活動を併せて行うことになり、3月第一例会も奉仕会場である「西条市総合福祉センター」で済ませる計画で実行されました。今回もYCE・国際関係委員会との共同事業にさせていただき、当日あいにく雨の中テント張りから準備を進め、午前10時より献血が開始されました。心配された雨も昼前には上がり、清掃作業には快適な状況になりました。12時から委員会別に3班に分かれ、観音水から新町泉までの間を掃除しました。日頃から市の係の人が掃除している区域のため、あまりごみなどはないと思っていましたが空き缶など結構大量に集められて驚かされました。その後、アクアホールにて3月第1例会を開催、幹事報告のみで簡略化し例会終了、献血奉仕に戻って行きました。

献血に関しては登録者120人で当初予定数には少し足りない結果でしたが、コロナ禍の時期としてはたくさんの方のご協力がいただけたと感謝いたします。今回は二つの事業を1日で済ませるというやや変則的な計画でしたが皆様のご理解、ご協力のおかげで無事終わることができました。ありがとうございました。

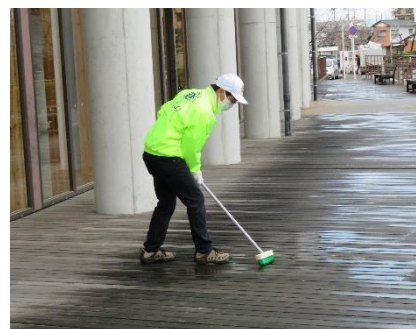
【献血実施結果】

受付来場者数 120名

400ml 献血者 114名 不採血 6名



3月第2例会の様





シリーズ

## 伊予西條遺産

～ テーマ ～  
伊予西條（藩）の記憶  
芝居小屋と庶民の娯楽

いつの世にも人々の暮らしに娯楽は欠かせない。

江戸時代に入って平和が訪れると人々にとって唯一の娯楽は角力(すもう)や芝居である。

角力はさておき、芝居はたいてい地方巡業の旅役者に依るものであった。

当時、この地の芝居小屋は常設のもので、前神寺が建てて、管理していたもので、許可を願い出なくても、自由に興行する権限が与えられていた。それというも運上金(営業税)が高かったことで優先的に保護されていた様だ。

その前神寺は、奈良時代に始まった神仏習合の為、石鎚神社境内に広大な寺域を有し、その馬場先に6間(約11m)×12間(約22m)の常設の芝居小屋が設けられたものである。

また、旅籠(はたご)や食堂土産物屋などから得る収益もあり、当時西田村は農業以外の収入で十分やっていけた様である。

その後興行は、水野忠邦の改革で取締りがきつくなり、この芝居小屋にまで及び、天保2年から弘化3年までの15年間は興行されなかった。

この事はいかに西条藩が御三家、徳川家の支藩であるにもかかわらず、いかんともしがたかったと思われる。そして水野失脚の弘化3年(1846)後からは、再び淡路や阿波の人形座などがたびたび訪れて興行している。その証(あかし)が現在の石鎚神社の左右にある十数基の石灯笼に〇〇太夫といった名前が刻まれており、その折の興行主が奉納したことがうかがえる。これより、当地での興行は幕末まで続くのである。

※参考文献・・・橘の歴史・西條市誌の資料より一部引用



## 伊予西條遺産

～シリーズ2～

～ テーマ ～  
四国遍路 “世立遍路”

江戸時代の初期には、庶民が他国の神社参りをする長期の旅は、藩の規制も厳しかった。しかし、天和・貞享頃からは、進行と物見遊山を兼ねた他国の神社参りがぼつぼつ増え始めた。

幕府が元禄元年(1688)に、旅行中の発病者や行き倒れの埋葬など庶民の旅の保護政策を打ち出したことに加えて、天下泰平の余沢による交通の発達や庶民の余暇の発生と、生活の向上等が重なって、中

期以後には、庶民の神社参りの回数と人数も急増するようになった。

これらの庶民は、「参詣」の口実の下に、農業や日常の束縛からの解放と知的好奇心の充足を求めて、どの村からも小集団で他国の神社参りに出て行くようになった。特に文化・文政時代(1804-1830)には最高潮に達して、旅の大衆化時代を迎えるに至った。行先としては、伊勢参宮、四国巡拝、金毘羅参り、宮島参りが代表的であった。

四国遍路は、弘法大師の修業の足跡をたどる巡礼である。僧澄祥の『四国遍路日記』(承応2年(1653))には、「世間流布四八八里、私二二九五里四〇町。阿波10日、土佐二〇日、伊予二〇日、讃岐八日」とあるが正確な行程は、約三六〇里(1414 キロメートル)である。

遍路の旅は、中世には修行僧らの苦行の道であったが、貞享4年(1687)高野聖の真念が『四国遍路道指南』を著し、翌年寂本へ協力して『四国遍礼霊場記』を完成させたこともあずかって、近世初期には危険や難所も多かった遍路道も次第に整備され、道標も増えたうえに、庶民の間に「お接待」や「善根宿」の風習もできてきて、それほど苦しい旅ではなくなってきた。幕末期に小松町の和田屋利平も小松近辺に道標をたてた。『会所日記』(※①)には、領内各村から四国遍路の願出許可者と帰着報告が記されており、毎年40~50人に及んでいる。時代としては、宝暦頃から特に多くなり、文化・文政時代がピークのようなのである。また、遍路も近畿・中国と四国各地からの者が多い。これらの者の中の行き倒れた者に対して、藩の従士目付が立ち合って処置した記事も多く見られる。

四国八十八か所の札所を巡拝する巡礼のことをヘンロと呼ぶ。しかし、一般に伊予ではこの遍路のことをハンドと言い習わしてきた。また讃岐でも土佐でもハンドであった。ハンドは「辺土」の文字が当たると思うが、これは四国の辺地を歩く巡礼ということである。とにかく巡礼を「遍路」と呼ぶのは四国遍路だけの呼称である。さて、遍路にもさまざまあり、ピンからキリまである。一般的な遍路はオハンドサンというが、これに対してヨタテハンド、オゲハンド、イザリハンド、ドスハンドなどと呼ぶ遍路がいた。この類の遍路は近年はその姿を見なくなったが以前には多かったようである。ヨタテハンドは世立辺土で、遍路を半ば職業化し、これで口ずぎしている遍路のことである。上記に記載のハンドは少しずつ意味合いが違うのだが、今となっては人権侵害するような語句で説明するようなものでもあるので差し控えたいと思う。

#### ※①『会所日記』

城もなく武士はわずか数十人、人口一万人余りの伊予小松藩にて江戸時代で唯一、150年以上も書き継がれた日記。互いに顔の見える小藩だからこそ、代々の幹部たちは私利を計らず誠実に藩政に取り組んできた。不作の兆しを把握し、大飢饉には一人の餓死者も出さなかった。領民の命を守る事が優先された、類をみない善政が日記から読み取れる。天災、幕府の圧政を乗り越えたもう一つの江戸時代がわかる貴重な記録である。



①



②



👉 メンバー幼年期

①香川県砂浜で

②家族旅行にて

同じ人物の写真です





## 西条ライオンズクラブ 会員募集中!

# We Serve

### ◎ライオンズクラブとは

世界最大の社会奉仕団体のことです。  
世界で約 210 の国または領域にあり 46,000 を超えるクラブが存在し、135 万人以上の会員がいます。あなたも世界の一員になりませんか。

### ◎西条ライオンズクラブは

国内で 334 番目、愛媛県下では 9 番目のクラブとして結成されました。「We Serve～我々は奉仕する～」を合言葉におなじ志をもつ仲間同士が集まって奉仕活動を行っています。

人の為に、社会の為に、一人ではできないことを、出会いを通して集まった会員が力を合わせて、それぞれの地域において社会奉仕に貢献していこうという団体です。



アクアトピア水系周辺  
地区の清掃活動

## ほのほのシリーズ

### [ わたしの好きなもの ]



No. 27 伊藤 稔

#### ①好きな食べもの

お寿司・焼肉

#### ②好きな本

山と溪谷

#### ③好きな音楽

浜田省吾「路地裏の少年」

#### ④好きな車

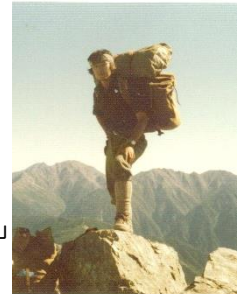
ランボルギーニ

#### ⑤好きな場所

南アルプス北岳山頂 (富士山が見える)

↳日本で二番目に高い山

子どもの頃から自然が大好きで、学生時代に登った南アルプス北岳の雄大さに感動して以来、山々が好きになりました。



学生時代の私

#### 【新型コロナウイルス感染症に思うこと】

スペイン風邪が流行ったように時代の大きな転換期にきているように思います。

一日も早くワクチン接種が始まり、またその効果があらわれ、収まりますように!

## 編集後記



今年はいつになく寒い冬でした。

ようやく春になりましたが未だ、コロナ感染症の収束の目処が立たず、予断許さぬ状況が続いています。早いワクチン効果が待たれるところです。

今、コロナのせいで会食は評判が悪く、飲食の常識が大きく変わってきました。

他国はいざ知らず、我が国では相談事は食べながらなされることが多く、その上お酒が入ればまとまらない話もうまく行き、はじめが付くというものです。

「孤独のグルメ」の五郎さんの様に、一人で食事を楽しむなら「心の声」でそれもよいかもしれませんが、会話の無い食事ほどつまらないものはないと思います。

とに角、早く元の姿に戻りたいものです。

さて、各地で桜の開花の便りが届きはじめましたが、今年は桜を愛でることが出来るのでしょうか。

桜の下で先ず一献、が待ち遠しいですね。

MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員 越智英明

発行者 会長 宮崎英明  
幹事 伊藤正己  
[MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員会]  
委員長/副委員長 盛實正人/小野雅志  
編集委員 越智英明・寺川治美・日野克則  
安藤和浩・高田潤一  
例会日 毎月 第1・第3火曜日 (12:30~13:30)  
例会場 西条商工会館  
発行 西条ライオンズクラブ事務局  
印刷 プリントワールド ONO

## 西条ライオンズクラブ

〒793-0027 愛媛県西条市朔日市779-8

西条商工会館3F

TEL(0897)56-3980

FAX(0897)56-9251

E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ http://saijo-lions.jp

facebook http://facebook.com/saijo.lions/